

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 授業の質と量の確保・向上を図るとともに、学校設定教科「共創・探究」をハブ(接続拠点)に情報活用能力、問題発見・解決能力、論理的思考力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</p> <p>② 知・徳・体のバランスの取れた教育の実践を通じて、豊かな感性を育み、世界を変えていけるような高い志を持った生徒を育てる。</p>	<p>① 「共創・探究」を拠点として組織的に取り組んできた授業改善の成果を踏まえて、全ての教科において情報活用能力・問題発見・解決能力、論理的思考力を育成する。</p> <p>② コロナ禍の制限下にあっても、生徒のグローバルな視野を育み、生徒一人ひとりの高い志を支える確かな思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>① 探究活動を各教科で設定、生徒が情報を有効に活用しながら、仮説・検証を経て課題を解決に導くための論理的な思考力を育成する。</p> <p>・SSHの成果を取りまとめ、中間発表に向けた準備を進める。</p> <p>② これまでに培ったICT利活用のノウハウを基に全ての教科で情報発信力を育む場を確保し、学力育成を進める。</p>	<p>① 課題解決に向かう論理的、科学的な思考力を伸ばすことができたと考えられる生徒の肯定的なアンケート回答が全校の80%に達したか。</p> <p>② ICTを必要に応じて用いながら、生徒が主体的に参画することのできる授業形態について、全ての教科で実践することができたか。</p>	<p>① 授業アンケートの結果では、情報活用能力、論理的、科学的な思考力について80%を超える肯定的な回答が得られたが、アンケートの一部には否定的な回答も見られた。</p> <p>② 教員の自主的な研修会等が企画、実施されるなど、授業改善に向かう教員一人ひとりの高いモチベーションに支えられ、すべての教科においてICTを意欲的に活用し、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を引き出すことができた。</p>	<p>① コロナウイルスによる制限が徐々に緩和される中、これまでにオンラインを活用した授業の実践などを踏まえて、より効果的な年間指導計画を策定していく必要がある。</p> <p>② 生徒のプレゼンテーション能力をはじめ、ICT利活用能力は伸長した。今後、生徒の発信先をさらに広げ、より多くの指導助言を得られるような場を確保していく必要がある。</p>	<p>① 授業を通して、情報活用能力や論理的、科学的な思考力を伸ばすことができたと考えている生徒の肯定的なアンケート回答は全校の85.5%にのびている。このことは大いに評価できる。</p> <p>一方で否定的な回答を寄せた生徒の気持ち等を丁寧に分析し、今後の授業改善につなげていくことが必要ではないか。</p> <p>② ICTの活用については、一人一台端末の導入以来、多くの教科で実践が広がり、より深い指導が実現できているのではないかと。今後はチャットGPT等の普及などAIに関する新たな状況が展開されることも予想され、生徒を取り巻く状況は大きく変化していくことと思われる。学校としても将来を見据えて早めに対応することが求められてくるだろう。</p>	<p>① 授業改善に向けた取組の結果、生徒の情報活用能力、科学的、論理的思考力等について概ね満足できる成果が得られた。今後は、学校運営協議会、SSH運営指導委員会からの指摘を踏まえ、生徒のパフォーマンス等を客観的に評価する手法を確立していく必要がある。</p> <p>② 教員の研修会を充実させ、全ての授業でICTの利活用を進めることができた。今後、課題の設定や仮説の立て方、考察の進め方、情報を発信する力の育成方法をさらに検討する必要がある。</p>	<p>① SSH事業に関連して、共創・探究科を始めとする本校の探究学習の取組の様子や成果等を、近隣の中学生や小学生など、外部に向けて、より強力に発信していく。</p> <p>・外部からの評価を生徒に還元することで、生徒一人ひとりの学びに向かう意欲の向上につなげていく。</p> <p>② 本校の卒業生を中心として、これまでに積み上げてきた人脈をさらに広げ、生徒の主体的、対話的で深い学びが実現できるよう、多くの専門家による指導・助言が直接得られる場を確保していく。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>① 社会の一員としての規範意識や公共心を持ち自覚ある行動がとれる生徒を育てる。</p> <p>② 健やかな身体といのちを尊重する自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。</p>	<p>① あらゆる教育活動の場面で、道徳教育の充実をはかり、倫理感の醸成をはかる。</p> <p>② 生徒が抱える、一人では解決不可能な課題を早期に発見し、関係する教員が情報共有し組織的に対応する。</p> <p>・教科外活動を通じて、生徒の豊かな社会性を育成する。</p>	<p>① 生徒を対象として情報モラルに関する啓発指導、自転車乗車マナーに関する指導を計画し、継続的に実践する。</p> <p>② 面談やアンケートを利用して生徒が抱える課題の早期発見につなげ、情報の共有を図る。</p> <p>・生徒の自主的、自律的な活動を支援する。</p>	<p>① 近隣住民からの苦情を引き続き減少させ、今年度0件にすることができたか。</p> <p>② ケース会議等を通じて、学校の対応方針を明確にし、保護者との協力関係を構築することができたか。</p> <p>・「魅力と特色づくりについてのアンケート」結果で、充実した教科外活動ができたとの回答が70%を超えたか。</p>	<p>① 自転車乗車マナーに関する近隣住民からの苦情は0件とはならなかったものの、件数を減らすことができた。</p> <p>② ケース会議などを迅速に開催することで、学校の基本方針を早期に立てることができた。</p> <p>・3学年を対象としたアンケートでは、約半数の生徒が充実した活動ができなかったと回答した。</p>	<p>① 安全とマナーに関する意識を醸成し、自転車乗車時のヘルメット着用も推奨していく。</p> <p>・人に注意された時に誠意を持って対応することについて指導する必要がある。</p> <p>② 外部機関との連携を一層充実させる。</p> <p>・生徒の主体性を引き出すことで、達成感を得られる工夫を重ねる。</p>	<p>① 道幅が狭く、交通量も多いところで自転車と並走する様子を見ることがある。身の安全を守るという意識を強く持つてほしい。</p> <p>② 周囲の目や、親との関係性のなかで、自分自身の心の悩みを表に出さず、我慢してしまう生徒が多くいると思われる。生徒との面談等を通じ、一層きめ細かな生徒支援が求められている。</p> <p>・卒業式の卒業生代表の言葉によく表されていたように、この3月に卒業した生徒たちは、入学以来、コロナ禍による制限が多い3年間であった。アンケート回答の結果は真摯に受け止める必要がある。</p>	<p>① 一定の成果が出ており、今後も安全とマナーの両面から継続的な指導をしていく必要がある。</p> <p>・他人とのコミュニケーションがうまくとれないことからトラブルに発展するケースがある。</p> <p>② 外部機関とつながることの重要性について学校の認識が深まっている。</p> <p>・今後、困難な状況にあっても投げやりにならずに乗り切っていく気持ちを育みたい。</p>	<p>① 生徒のおよそ65%が自転車を利用している。危険な箇所や事故につながるケースなど具体事例を示して、生徒の心に響く指導を工夫する必要がある。</p> <p>② 教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを軸に支援体制をさらに充実させる必要がある。</p> <p>・コロナ禍の中、3学年生徒が工夫して行事開催にこぎつけた様子や、学校行事運営のノウハウなどを記録に残し、後世に伝えていくことが重要である。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	① どんな困難にも果敢に挑み最後まで諦めずに難関国公立大学等、個々の第一希望の進路実現に向けて力を尽くす生徒を育てる。	① 難関国公立大学への現役合格者10名。スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上を達成させる。	① 各種講習、難関大学特別講座等を開催し、難関大学入試に対応できる力を身に付けさせ、生徒の高い志を保つことができるよう継続的な進路指導を行う。	① 難関国公立大学への現役合格者10名。スーパーグローバル大学への現役進学率25%以上の目標が達成できたか。	① 合格者数は目標に届かなかったものの、年間を通じて難関大学対策講座を設け、多くの生徒の受講を実現し、着実な学力伸長を達成することができた。	① 生徒の自主的な学習時間が少ないことが課題である。今後スタディサプリの活用を充実させ、進路相談を通じて高い志を保つ意識を持たせる。	① 生徒に高い志を持たせる工夫として、高校で学んだことが社会に出て何に役立つのか、社会とどのように関連しているのか、という視点から具体的な経験談等を卒業生に話してもらうなどの企画も考えられるのではないかと。	① 家庭学習時間の拡充を目指し、スタディサプリの活用方法についても研修会を設けるなどして一層の工夫に努めていく。	① 現在実施している卒業生による講話に加えて、SSH事業の中でもキャリア教育の視点を含んだ内容となるよう計画していく。
4	地域等との協働	① コミュニティスクール(学校運営協議会)の充実を図る。 ② 防災教育、防災体制を強化する。 ③ SSHの取組に係る連携を推進する。	① 協議会の結果を踏まえ、具体的な提案として学校運営に生かしていく。 ② 非常時マニュアルの見直しをすすめ、より実用的な内容となるよう精査し、さらに必要な備蓄を進める。 ③ 企業や研究機関との連携をSSHの取組に生かす。	① オンライン等を用い、コロナ感染拡大の局面でも協議の継続ができる体制整備をはかる。 ② 地域と協働できる防災マニュアルの策定と備蓄品の充実を進める。 ③ 平塚市域を中心に、連携可能な企業や研究機関等を開拓する。	① 協議会での提案を踏まえて課題解決が具体的に図られたか。 ② 防災訓練等について地域との協働が実現し、備蓄品の充実が図られたか。 ③ 地域等との協働により企業や研究機関などの連携先をさらに開拓することができたか。	① 委員からの具体的なアドバイスを受け、課題解決に向けた取組をすることができた。 ② 地域と協働した防災訓練は実現しなかった。備蓄品の充実が計画に沿って進めることができた。 ③ 同窓会の協力により、平塚市内の企業への見学会を実施することができた。	① 協議会の効果的な運営方法について、より一層の工夫が必要である。 ② 次年度は地域の方を招いて避難所設置訓練を実施する。 ③ 関係企業との連携を今後も継続させ、生徒一人ひとりの探究的な学びに発展させていく必要がある。	① 今後もオンラインも利用しながら、学校行事や授業見学にも積極的に参加していきたい。 ② 「防災教育ワークシート」などクイズ形式を取り入れた取り組みは大変素晴らしい。実施後のアンケート調査からは、生徒一人ひとりの気づきが見られ、防災意識の向上が図られていることがわかる。自治会での活用も検討したい。また、防災専用ダイヤルの活用や0000JAPANに関する情報を周知していく必要がある。 ③ 実際の企業を見学して、学校の中では得られない体験をすることは、生徒の大きな刺激となり、探究的な学びへと発展させていくチャンスと捉えることができる。	① 日頃から委員と意見交換をし、貴重な意見をいただくことができた。引き続き、協議会との連携を密にはかる必要がある。 ② Google Classroomを活用するなどの工夫により、防災に関する意識付けをすることができた。 ③ サイエンス・インターシップやシンガポールでの海外研修を通じて先進的な企業や研究機関における学びの機会を得ることができた。	① オンラインを利用して、日頃から情報交換ができる体制を確立させる。 ② 生徒による防災委員等を組織し、生徒のアイデアを生かすなど、生徒主体の防災活動を実現させる。 ③ 近隣の中学校等との交流事業を拡充し、本校の探究学習の成果等を発信していく。また、海外研修を継続させ、その成果を全校生徒及び外部に対してもより強力に発信していく必要がある。
5	学校管理 学校運営	① 安全・安心な教育環境を整備する。 ② 事故・不祥事の防止に努め信頼される学校づくりに邁進する。 ③ 教員のワークライフバランスを推進する。	① 本館トイレ工事が安全かつ速やかに進行するよう配慮するとともに、必要な環境整備を進める。 ② 成績処理を始めとして、事故・不祥事案件を1件も発生させない。 ③ 働き方改革の趣旨を職場に浸透させ、職員の健康増進を図る。	① 衛生委員会と連携し、生徒の安全な教育環境が実現しているか現状を記録しながら、定期的に改善状況を検証する。 ② 研修の工夫改善を図り、通常のマニュアルに加え、想定外の危機を発生させない体制整備を図る。 ③ 計画的な年次休暇の取得を促す。	① 定期的な検証の結果、改善の必要ありとされた案件が実際に改善されたか。 ② 教員自らが研修を企画するなど、不祥事防止に係る教員の主体的な取組が実現でき、想定外の危機の発生を常に意識した管理体制が整備できたか。 ③ 職員全員が年次休暇を5日以上取得することができたか。	① 衛生委員会と連携することで、職員更衣室の衛生環境を改善することができた。 ② 不祥事防止研修会を定例化し、継続して意識向上を図ることができた。 ③ 年休取得が5日未満のものは職場全体の16%であった。	① 引き続き改善の必要な案件があり、次年度へ向けて改善策を提案していく必要がある。 ② 教員が様々な研修を自主的に計画実行していく必要がある。 ③ 計画的な年休取得を進めるとともに、働き方に関する職員一人一人の意識改革を図る必要がある。	① 事務室の努力により、トイレ工事、耐震工事、エアコン工事、防水工事をはじめとした諸事業が順調に進んでいる。苦労が多いと思うが、引き続き、生徒や教職員が快適に過ごすことのできる環境整備をお願いしたい。 ② 他校での事例等を常に把握し、話題にすることで、不祥事防止に係る高い意識の維持につなげることができるのではないかと。 ③ 残業時間の多さも課題である。こうした状況がストレス原因の一つとなっている可能性がある。	① 職場環境については、一定程度改善させることができた。書類等の整理を進めるなどして身の回りの衛生環境の向上に一層努める必要がある。 ② ストレスチェックの結果から、比較的高いストレスがかかっている。原因を分析する必要がある。 ③ 休暇制度について職員に周知し、状況に応じた休暇取得が浸透するようになった。一方で残業時間の多いものが職員全体の20%存在する。	① 企業など学校以外の職場の取り組みを参考に改善策を考えていく必要がある。 ② 具体性のある働き方改革を進め、職場のストレスを軽減することは不祥事防止を実現するうえでも不可欠である。 ③ 改正された労働基準法の内容について再度職場内で確認する。また、時間外労働の多い教員には産業医との面談を設定する必要がある。